

暖かな春を迎えて

今年も大雪がふって、多くの人々を苦しめられました。とくに北陸地方では、3メートル以上の雪がふり、人が犠牲になっておられます。自然の驚異というものは、悔むことができせん。ほんとに悲しいです。でも国道の立ち往生にお互いに支え合う人々の姿をきいて、心温まります。

冬季オリンピックでは、金メダル十個と史上最大の活躍をされました。わが日本人の誇りであり、これは佛教の中にとかれていた精神のたまものです。不惜身命を訳せば、時の最澄が命をかけて、佛教を日本に伝えたことを言うのであって、何ごとにも、一生懸命取り組み、成就出来ることである。横綱になった力士が、必ず言う言葉であります・

さあ、3月に入ったので、すから、身体を思いっきり動かして、地域のため、人々の幸せの為、そして自分もしくはは家族のために働きましょう。



法華千部会法要の案内

来る四月五、六、七日、毎年の恒例の法華千部会が開催されます。この法要は、日常生活の指針となる法華経を千部千人が読誦して、国家安穩、家内安全、学業成就等の諸願成就を祈願する法要で、二六九年より面々と受け継がれています。見所は、木魚のリズムで法華経を唱えるところです。つきましては、**供養袋五百円**と各家の先祖様を弔

うために、**霊名札(戒名札)**二霊六百円を勧募します。ので、人々の幸せのために奉納ください。ようお願いします。終わりましたら、諸願成就のお守り(御札)を配布します。

※**子どもの学業成就(交通安全祈願)**祈願をいたしますので、祈願を希望される方は、住職までおたずねください。

世のため、人のため、

〇〇のため

近頃は、自分のことだけで精一杯で、他人の心配までしている余裕がなくなっているような気がします。

人に親切にするとと言っても、その人に思いやりの心が備わってないときけませんし、また、思いやりの心があっても、自分の心にゆとりがなければ、人に親切にすることは難しいです。

では、自分の心にゆとりを持つにはどうすればいいのかわかりませんが、自分の心の中にある欠点を探し、これを出し出すように心がけることだと思います。

自分に厳しくしていれば、何事も人のせいにしては致しません。

自分の行動や言動をかえりみながら、人にもし欠点があるならばそれを許し、自分には欠点がないか、すぐ反省をすることです。

自分本位の心が満杯になると、自らをコントロールできなくなってしまうのです。

この世は全て、お互いさま、おかげさまの心で、成り立っているのです。

その中で人と人が支え合って生きている、生かされているということです。

仏様は私達一人一人が、人を思いやる心を育て、それを実践していける人になれるように願っておられます。

人のためだと思ってくることが、自分にとってプラスになって帰ってきます。

そんな人達が世の中を良くしていくのです。「世のため、人のため」というのは、皆さんの思いやりの心一つから始まっています。「世のため、人のため、そして自分のため」になるということを目指してほしいものです。

罪障消滅

ざいしょうしょうめつ

赤ちゃんのお尻には、蒙古斑という青つぶくなっている部分があります。

これは成長とともに自然に消えていくものですが、仏様が私達に対してこの世に生まれる時に、しっかりと修行に励みなさいという意味を込めて、尻を叩かれたからだというお話があります。

青くなるくらいですから、仏様も気合いを入れて結構強めに叩かれたことでしょう。それくらい、この世で生きるということは大切な修行なのです。

私達はみんな生まれきた時に、すでに持っているものがあります。

それが罪障で、この世に生まれる前の過去世において積んでしまった悪業、つまり罪というものです。この罪障は、簡単に消し去ることはできません。

一生をかけて少しずつ消していくほかありません。罪障消滅とは、懺悔滅罪(ざんげ、めつざい)の行とも言い、自分では知ることができない罪ではあるけれども懺悔し、改心を誓うということなのです。

仏様のお説きになられた正しい教えに気づき、その教えを実践し、この世においては罪を重ねないように精進することが大切なのです。

皆さんがこの世に生まれきた意味はたくさんあると思います。

その人生の中で、罪障消滅ができる機会に恵まれたわけですので、きっちり借りは返し、返していきましょう。

覚えてはいるかもしれないかもしれませんが、仏様にお尻を叩かれたこと、その意味を理解していくことをお勧めいたします。



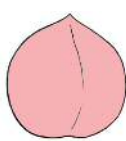
当山にお越しいただけると、石段を一段一段のぼることで、罪をなくし西方浄土の世界に足を踏み込めるのではないかと私は、いつも考えています。

後期定式割のご協力をお願い

いつも、当山の護持のために、お世話になりありがとうございます。

平成二十九年九月から平成三十年三月までの間に、支出しました合計金額を檀家数で割った一軒の負担です。主なものは、松の木の剪定、蜂の巣除去、本山の賦課金、本堂、庫裏等の建物共済です。

檀信徒の皆様には、出費多端の折、誠に恐縮ですが、ご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。



法話会

ご希望の方は、本堂開けていますので、ご連絡ください。「玉泉寺住職日記」のブログを毎日更新しております。ご覧ください。

びんずる会の活動に参加しませんか

写経、奉仕、座禅をして、心の修養をします。皆様の参加をお待ちします。参加してみようと思われの方は、ご一報下さい。

発行者 高島市安曇川町田中三四五九
天台真盛宗玉泉寺 木村 哲基
電話 〇九〇一三七〇八一七二〇六
FAX (〇七七)五〇二二二七九
Eメール svka37375@eto.eonet.ne.jp
新Eメール info@svkusenji.com
ホームページ 「滋賀高島石仏の玉泉寺」と「玉泉寺住職日記」をご覧ください。